

福岡病院での診療情報を下記の研究に用いることになりましたのでお知らせします。

記

1. 研究代表者	杉山 晃子(福岡病院アレルギー科)
2. 研究課題名	アレルギー拠点病院ネットワークを活用した①アナフィラキシー症例集積研究②アナフィラキシー患者参画縦断的調査
3. 研究の概要 (個人情報の利用の目的)	<p>[研究の背景] アナフィラキシーとは、アレルギー症状が複数の臓器(肺や腸、心臓など)で出現し、生命の危機となる重篤な状態です。 日本では、どのような患者さんがどのような原因でアナフィラキシーを起こし、どのような治療を受けたのかといった情報を全国から集めるシステムはありません。そのため、日本でのアナフィラキシーの誘因や治療、管理状況などがどのようになっているか十分に分かっていません。</p> <p>[研究の目的] 全国のアナフィラキシーの患者さんの情報を集めて、誘因・治療・管理状況の毎年の変化を調査し、各病院で情報を共有することにより、全国のアナフィラキシーの診断・治療・管理の向上を目的とします。</p> <p>[研究の方法] ●対象となる患者さん 下記の研究期間内に、アナフィラキシーを発症し、発症時または発症後に本研究に参加している医療機関(下記参照)を受診して医師に診察された方 ●研究期間:院長承認後から2027年3月31日[個人情報の取扱い] 研究に利用する情報には個人情報が含まれますが、院外に提出する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できる情報は削除し、研究用の番号を付けます。また、研究用の番号とあなたの名前を結び付ける対応表を当院の研究責任者が作成し、研究参加への同意の取り消し、診療情報との照合などの目的に使用します。対応表は、研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。 情報は、当院の研究責任者及び情報の提供先である国立病院機構相模原病院が責任をもって適切に管理いたします。研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。</p>
4. 使用する診療情報	<p>●利用するカルテ情報 患者背景(性別、年齢、過去のアナフィラキシーの原因と回数、事前のアドレナリン自己注射剤の処方の有無)、今回のアナフィラキシーの経過(発症日、誘因、誘発症状、二相性反応の有無、7日以内の転機)、治療内容(アドレナリン自己注射剤使用の有無、医療機関での治療内容、入院加療の有無、集中管理の有無) ●情報の管理 上記の情報は、個人を特定する情報(氏名、住所、診療録番号等)を削除して、個人を特定できないようにしたうえで研究代表者機関である国立病院機構相模原病院に郵送またはインターネットを介して提出され、集計、解析が行われます。</p>
5. 使用する検体	
6. 病名	アナフィラキシー

① この研究の科学的妥当性と倫理性は、当院の倫理審査委員会等において厳重に審査され、承認されています。また、調査項目は既存のデータであり、何らかの負担を生じることはありません。

② 具体的な研究内容を知りたい、あるいは、今回の研究に用いることを拒否したい場合には下記の問い合わせ窓口までご連絡下さい。

☆お問い合わせ☆

国立病院機構福岡病院管理課
管理課長

住所 : 〒811-1394 福岡市南区屋形原4丁目39-1

電話:092-565-5534

FAX:092-566-0702

(お問い合わせは、なるべく、FAX又は郵送でお願いいたします。)